

平成 17 年 7 月

試験研究業務月報



穂ぞろい期にサンプリングした穂（左）とサンプリング風景（右）

籾数に着目した水稻の生育診断

近年、乳白粒や心白粒などの白未熟粒が多く発生し、米の品質低下が問題となっています。白未熟粒は、登熟期が高温の場合や籾数が多すぎる場合に発生しやすいことがわかっています。そこで、籾数を制御し、白未熟粒を少なくすることを目的として、生育診断に基づく穂肥の施用方法を検討しています。

幼穂形成期の生育量（草丈×莖数×葉色など）から、分化穎花数（将来籾となる可能性のある穎花数）を推定し、それに応じた適切な穂肥の施用量を設定することで、適切な籾数を確保します。

穂ぞろい期に穂をサンプリングし、現在、分化穎花数を調査しているところです。

農業総合研究所